



# 失語症について

## 失語症とは

私たちは、ふだんなにげなく言葉を聴き、話しています。この自由に言葉を操る能力はとても複雑な操作を要するもので、脳のなかの特定の部分(言語野)が大きな役割を果たしています。この言語野が何らかの原因で損傷をこうむり機能が低下すると、言葉を操る能力に障害が生じます。これを失語症といいます。



## 言葉のすべての面に困難が生じます

失語症は、声や舌の運動や耳の聞こえの問題ではなく、脳の中での「言葉の操作」の問題です。このため、話すことと聴くことだけでなく、言葉全体にわたって、つまり、言葉を「話す、聴く、読む、書く」のすべてに、困難が生じます。

「話す」 言葉を思い出せなかったり、意図したのとは違う言葉が出てきて、言いたいことが伝わりにくくなります。

「聴く」 話しかけられたときにその意味がわかりにくくなります。

「読む」 文字を読んで内容を理解することが難しくなります。一般に仮名文字は難しく、漢字や数字の方が理解しやすい傾向があります。

「書く」 文字を思い出して書くことが難しくなります。

「計算」 四則計算が難しくなります。



## 失語症は、認知症や記憶障害ではありません

失語症は、言葉が思い出せないだけで、記憶をなくしたわけではなく、また認知症とも異なります。ですから、子どもに話しかけるような態度や、幼稚な言葉、不必要な大声での話しかけは、気持ちを傷つけることになりかねません。

言葉が「不自由」なつらさは、意思が通じない不便さだけではありません。楽しい語らいを通しての心の通い合いを奪われ、また、話せない、書けないことを恥ずかしく思い、自分に自信を失いがちになります。言葉でなくても心が通じ合うということ、前と同じようにその人格や判断力を頼りにしているということを、態度で伝えてあげてください。

## では、どんなふうにコミュニケーションをとったらいいのでしょうか

失語症の方は、予期していないことを突然言われたり、いちどきにいろいろなことをたくさん言われると、混乱してしまいがちです。「～のことなんだけど」と、前おきをして、徐々にひとつずつ、理解していることを確かめながら話してください。実物・写真・カレンダーなどを見せたり、文字（数字や漢字の単語などが理解しやすいことが多い）で示しながら話すのも、理解を助けることがあります。

また、話したくても言葉が出てこない時には、せかさないで少し待ってみてください。脇からあれこれいわれるとますます混乱してしまうことがあります。話せた、通じた、という体験を多く持っていただくためには、家族のアルバムや、ご本人が興味を持っているもの、例えば野球の写真集などを手元において、それを材料に話をするのもよいと思います。



**あせりやいらだちは禁物です。ご本人のペースに合わせた話し方をするように心がけてください。**